

研究機関：広島大学

研究課題名	消化器移植外科領域における大動脈石灰化が与える予後因子・合併症予測因子の検討
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器外科・移植学 教授 大段秀樹
研究期間	平成30年10月29日～2028年12月31日
対象者	1991年1月から2028年3月に当院消化器移植外科で消化器外科・移植外科手術を施行した患者

意義・目的

腹部大動脈石灰化は糖尿病、心血管イベント腎機能低下に関与していることが知られている。(Ichii M, et al. Kidney Blood Press Res. 2013;38: 196-204.) 腹部大動脈石灰化による臨床データや病理組織的な解析を行い、肝胆膵・移植領域で移植後の予後因子・合併症予測因子を検討することは臨床的意義が高く今後の治療方針に役立つと考える。本研究の目的は腹部大動脈石灰化が消化器移植外科領域において予後や術後合併症へ与える影響を明らかにすることである。

方法

1991年1月以降に消化器外科手術・肝移植・腎移植患者を対象とする、後ろ向き研究。生存期間をKaplan-Meier法で解析、予後因子・合併症危険因子をLog-rank検定やFisher検定で単変量解析し、Coxの比例ハザードモデルによる多変量解析を行う。統計ソフトはJMP12.0を用いる。患者因子、手術因子、術後因子を検討項目として、単変量解析及び多変量解析を行う。

(個人を特定可能な情報は解析に用いません)

共同研究機関

なし

試料・情報の管理責任者

所属 医歯薬保健学研究科消化器外科・移植学 職名 教授 氏名 大段 秀樹

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が

〒

〒

〒